

# 健康通信

## アトピー性皮膚炎の最新治療



皮膚科 部長医師

菅原 京子

今回はアトピー性皮膚炎の最新治療についてお話しします。

アトピー性皮膚炎で悩んでいる患者さんはたくさんいらっしゃいます。アトピー性皮膚炎は、かゆみのある湿疹がよくなったり悪くなったりを繰り返す慢性的な病気です。

原因として、皮膚の乾燥やバリア機能の異常などに加えて、さまざまな物理的刺激(汗や汚れ、ひっかく行為など)やアレルギー反応が加わっていると考えられています。

アトピー性皮膚炎の治療は①塗り薬・スキンケア、②飲み薬や注射、③原因の除去の3本柱です。①の塗り薬にもステロイド外用薬と免疫抑制外用薬(一般

長期内服が難しい薬です。そのため治療が進まず、つらい思いをされている患者さんも多くいらっしゃいました。

しかし、2018年にデュピクセント(一般名:デュピルマブ)という分子標的薬の注射薬が登場し、治療が大きく変化しました。

アトピー性皮膚炎の新しい薬は2008年の免疫抑制剤であるシクロスポリン以来なんと10年ぶりです。デュピクセントはアトピー性皮膚炎で起きている炎症の原因である「IL-4」「IL-13」という\*サイトカインを抑えることで、かゆみや皮膚の症状を改善します。使用できるのは15歳以上で、自分で皮下注射をする薬です。



そして、2020年末にオルミメント(一般名:バリシチニブ)、2021年8月リンヴォック(一般名:ウパダシチニブ)という分子標的薬であるJAK阻害薬の飲み薬が使用できるようになりました。

アトピー性皮膚炎の病態に関わるサ

イトカインの、細胞内の情報伝達に重要な役割を持つJAKというたんぱく質を標的とする薬です。

薬剤によって使用できる年齢が異なり、副作用の確認のため投与前や投与後にも定期的な検査が必要です。



これらの分子標的薬は、皮膚の状態がとても悪い方や今までの治療でなかなかよくなるらない方に投与し、大変良い効果がでています。ただし、薬剤の値段も高く、副作用も考慮すると、使用できる患者さんは重症の方に限られます。

このように、現在アトピー性皮膚炎にはたくさん治療の選択肢があります。今後も新しい薬が出てくる予定です。現在の治療でなかなか良くならない方、悩んでいる方は、かかりつけの先生にぜひ一度ご相談ください。

\*サイトカイン:免疫細胞から分泌される細胞間の情報伝達を行うたんぱく

